



食と農を結ぶSEICA[青果ネットカタログ]

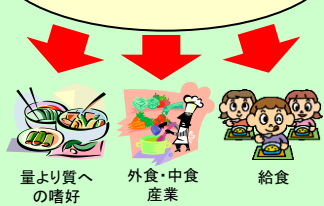
一生産情報活用による農産物ユビキタス・マーケティング技術の開発

SEICAは、生産者や栽培方法等の情報をホームページに登録し、全国の流通業者や実需者、消費者に情報を広く提供するシステムです。誰もが利用できる公的サイトで、登録も閲覧も無料です。

SEICAを活用することで、農産物の生産情報を単なる消費者への情報開示だけでなく、販路拡大、ブランド化、流通改善等のマーケティングに活かせる技術を開発しています。



- ・情報をどのように見せるか?
- ・現場ではどの情報が必要か?
- ・どうやって流通に乗せるか?



情報インフラとしてSEICA技術の新たな活用の検討

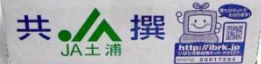
【SEICAのトップページ (<http://seica.info>)】

SEICAを活用した産地での取り組み事例

■いろいろなラベル



■ダンボールへの印刷



■通いコンテナ用の差し込みカード



※産地での取り組み事例の一部です

SEICAに登録することで、生産情報の開示だけでなく、様々なアプリケーションとの連携が可能となります。

1 外食店舗での原産地表示やPOP、メニュー表作成



食材の産地紹介POP、地元食材を使ったメニュー、パソコンを使った産地紹介などSEICAを活用することで、産地情報が簡単に利用できるようになります。(実証試験中)

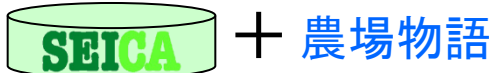
2 給食への活用 食育と地産地消への取り組み



給食献立や献立に使われる青果物の食材情報にSEICAを利用することで、食育や地産地消などへの活用が期待できます。(実証試験中)

3 SEICAの民間システムとの相互利用

りれき見る.com (<http://www.rireki-miru.com/>) の事例



農産物(野菜・果実・米・茶など)の生産者、生産者、出荷者の情報(文字、画像)をインターネットでカタログ的に紹介

イサポータルリンクが開発した、農産物の生産・出荷を総合的に管理するシステム。JGAP(日本版適正農業規範)の認証にも対応

インターネットで情報公開



SEICAは外部システムとデータ交信ができるWebサービスのインターフェースを有しています。これにより各システムの独自性を活かしながら、データの相互利用が可能になります。※民間システムの利用は有料の場合があります。

4 お米の「情報提供システム」との連動

イトーヨーカドー「あたたか米」での試験運用事例

<http://www.itoyokado.jp/food/fair/20107/-/fairCode/atataka>



(財)日本穀物検定協会のお米の「情報提供システム」と連携することで、生産履歴、食味、品質の情報を一元的に提供することが可能になります。(実証試験中)